

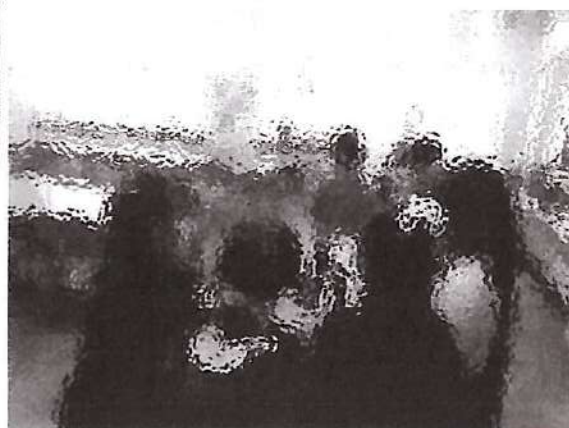
令和7年度

印旛地区教育研究集会
生活科分科会 提案資料

研究主題

つながりあい、

探究的に学び続ける児童の育成



第4部会 八街市立八街東小学校

大浦 美穂

石原 枝里

1 研究主題

つながりあい、探究的に学び続ける児童の育成

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

生活科の教科目標は、次のとおりである。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方をいかし、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能の基礎】

- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分の関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

- (3) 身近な人々、社会及び自然に働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活したりしようとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

文部科学省は学校教育において「生きる力」の育成を目指しており、その具体的な資質・能力を学習指導要領の中で「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱として整理している。これらを実現するための教育手法として探究学習は欠かせないものとなっている。

初めて「探究」という言葉が学習指導要領上に出てきたのは、平成20年(2008年)の学習指導要領改訂の際である。「各教科における習得や活用と総合的な学習の時間における探究」と答申に示されたことを受け、総合的な学習の時間の目標に「探究的な学習」の文言が位置付けられた。そのうえで、総合的な学習の時間の解説において「問題解決が発展的に繰り返されること」「物事の本質を探って見極めること」と探究的な学習について説明がなされた。また、低学年教育の中核を担っている生活科では、子どもが思いや願いを実現する学習活動を行うことを中心とし、活動や体験を通して学ぶこと、子どもの気付きを大切にすることが大事にされ、低学年教育における「探究」を担っている。

(2) 今日の課題から

現在、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており予測が困難な時代となっている。そのため、未知の状況において、自らの知識を活用・発揮しながら、柔軟に対応できる人材こそが、社会で活躍し社会を創造していくことができるのであろう。目の前に広がる未知の状況や問題状況を解決するために、異なる多様な他者と協働しながら、自らの知識を自在に

活用・発揮していくことが期待される。

OECD（経済協力開発機構）が実施する国際学習到達度調査（PISA）でも、「どれだけ知識を覚えたか」が問われるのではなく、「自分が身に付けた知識や技能を実社会や実生活のなかにある課題や問題解決のために、どの程度活用できるのか」が問われるようになっている。このような学力観の転換は、学校現場において「知識の詰め込み教育」から「子どもが自ら学び、自ら課題を見つけ、自ら考える力を重視する教育」へと転換するきっかけとなっている。

変化する社会のなかで、知識や技能の確実な習得は必要不可欠だが、それだけでなく、習得した知識や技能を思考・判断・表現できる力を磨かなければならない。そして習得した知識や技能を活用しながら、課題を探究したり、問題を解決したりしようとする「探究学習」が、人生を生き抜くために必要な学びとして、いま重視されている。

（３） 学校教育目標から

＜学校教育目標＞

思いやりがあり 自ら考え行動できる 心身ともにたくましい児童の育成

＜目指す児童像＞

- 自他を大切にし、共に生きる心をもった子
- 自分の考えを持ち、学び合い、高め合う子
- めあてをもち、あきらめず取り組める子

この学校目標を達成するため、授業改善の視点を常にもち、つながり合い、探究的に学び続ける児童の育成を目指している。

（４） 児童の実態から

本校は全校604人の大規模校であり、全学年3学級ずつ展開している。明るく素直で、活発な児童が多い。一方で学習面では課題が多く、体験的な学習や与えられた学習には熱心に取り組んでいるが、主体的に考えたり、自分の考えを発信したりするなどの思考力、判断力、表現力は乏しい傾向にある。家庭環境の不安定さから長欠児童も多くおり、安定して登校できないことも、学力が低位の児童が多いことの一つの要因であると言える。

生活面では、朝の登校班や、月に1度の縦割り班活動があり、1年生から6年生までが触れ合う機会が多い。異学年交流を通して、上級生には下級生を思いやる気持ちを、下級生には上級生のよいところを学ぶ気持ちが育っているように感じる。外国籍の児童が年々増える傾向があり、多様な文化や価値観を認め合い尊重しあっている。

学校には、学習指導補助や図書室の整理を行う学校支援ボランティア団体「八街東みら

い塾」や、月に1度、読み聞かせを行う「わらべ会」などがあり、地域をあげての学校支援体制が整っている。

これらの実態から、校内や地域の人々とのつながりを生かして、探究的な学習を工夫することにより、知識や技能を思考・判断・表現できる力を養っていきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

探究的な活動が充実するための単元構成の工夫を明らかにする。

4 主題について、および研究仮説

(1)「つながり」とは

日本生活科・総合的学習教育学会、第32回全国大会・神奈川大会実行委員会の著書「探究的な学びを実現する生活・総合の新しい授業づくり」において、生活・総合の時間では、以下のような「10のつながり」が重要だと整理されている。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 子供の学びがつながる | ⑥ 社会とつながる |
| ② 子供と子供の学びがつながる | ⑦ 未来とつながる |
| ③ 資質・能力がつながる | ⑧ 幼保小中高の学びがつながる |
| ④ 教科の学びがつながる | ⑨ 自分の心とつながる |
| ⑤ 地域とつながる | ⑩ 私たちがつながる |

生活科において、このような「10のつながり」を大切にすることで、より深い学びへと移行していったり、新たな気づきが生まれたりしながら、子どもの世界は少しずつ広がり、探究的な学習にすることができる。

この「10のつながり」の中でも、「⑤地域とつながる」と「⑥社会とつながる」に重点を置き、そのための仮説を以下に示す。

【仮説1】

人とかかわるまでの過程や、出会いの場を工夫することで、より主体的にかかわる意欲や姿勢が養われるだろう。

探究的な活動に必要なのは、「ほんもの」との出会いである。小学校学習指導要領解説生活編では、「人とかかわりが希薄化している現在、よりよいコミュニケーションを通して情報の交換をし、互いの交流を豊かにすることが求められている。」と述べられている。このことから、生活科において、様々な人とかかわる力を育成することが求められていると捉える。

しかし、ただ身近な人々とかかわらせるのではなく、思いや願いを実現していく過程において、子どもにとって必然性が感じられるものである必要があるため、そ

の事前の指導を工夫していく。

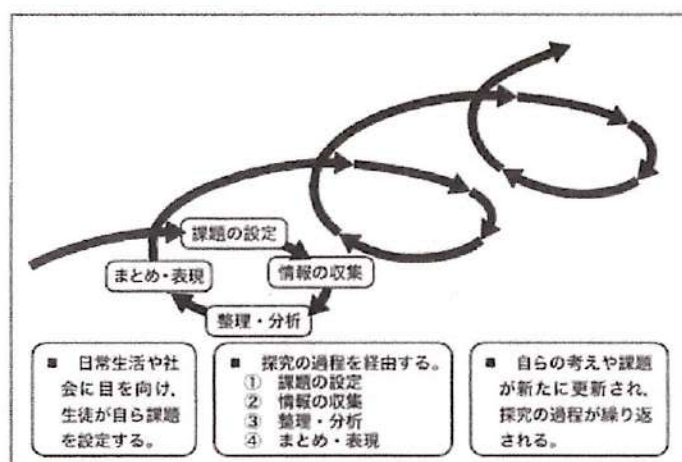
<手だての具体例>

- ・交流の場の設定…友達・教員・地域の方々・保育園児・家族
- ・教師の声掛け
- ・主体的にかかわるための場の設定
- ・十分な時間の確保
- ・ICT の活用

(2)「探究的に学び続ける児童」とは

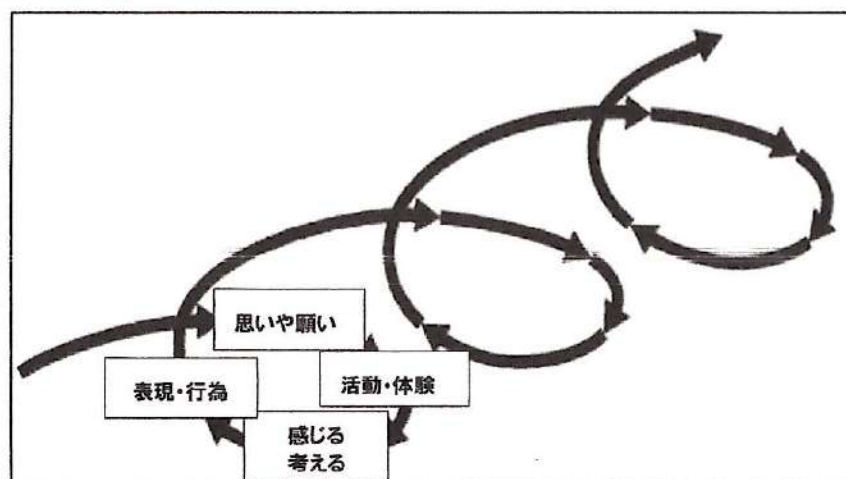
小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編において「探究的な学習における子供の学習の姿」として以下の図のような一連の探究プロセスが示されている。

探究における生徒の学習の姿



総合的な学習の時間では、①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現というプロセスが、一定程度繰り返されていく。

生活科では探究プロセスを、①思いや願いをもつ②活動や体験をする③感じる・考える④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）の学習過程を基本にして、繰り返していく。



この探究プロセスの中でも、特に「①思いや願いをもつ」「③感じる・考える」に重点を置き、そのための仮説を以下に示す。

【仮説2】

探究プロセスの「①思いや願いをもつ」「③感じる・考える」の指導を工夫することで、児童の気づきの質が高まり、思いや願いの醸成・発展につながるだろう。

探究プロセスでは、「思いや願い」と「振り返り」を繰り返しつなげていく。しかし、個々の児童の思いや願いを全て実現させることは、一斉授業では難しい。そのため、クラスの児童の意見から出たものを教員がとりまとめ、進めていく。

また、児童は活動の中で思考していく。その思考の深まりや広がりによって、次に必要な活動は予定とは違ったものになる可能性がある。「児童の思考の流れ」を生かし、次の活動に反映させることができるよう、教員は計画を軌道修正する余地をもつことが大切であるとする。

<手だての具体例>

- ・子どもの思いや願いを課題設定とする。
- ・振り返りを生かし、次の探究活動へつなげる。
- ・ワークシートは、「感想」と「次にしてみたいこと」のシンプルな質問のみにし、児童の思いや願いを引き出しやすくする。
- ・考えや意見を整理し板書して可視化することで共有しやすくする。

授業実践例 ①（令和6年度 第1学年）

1 単元名 おかしからのあそびにちょうせん

2 単元の目標

お年寄りや地域の方から昔の遊びを教わったり、いっしょに遊んだりする活動を通して、自分のことや地域の人について考えることができ、昔の遊びのおもしろさや上手になるためのこつ、地域の方の優しさやすごさに気づき、地域の方に親しみを持つとともに次の自分の成長を感じながら意欲的に生活しようとするようにする。

3 単元について

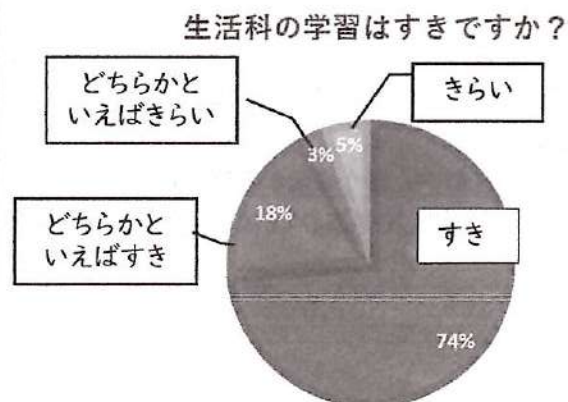
(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容を受けて設定したものである。

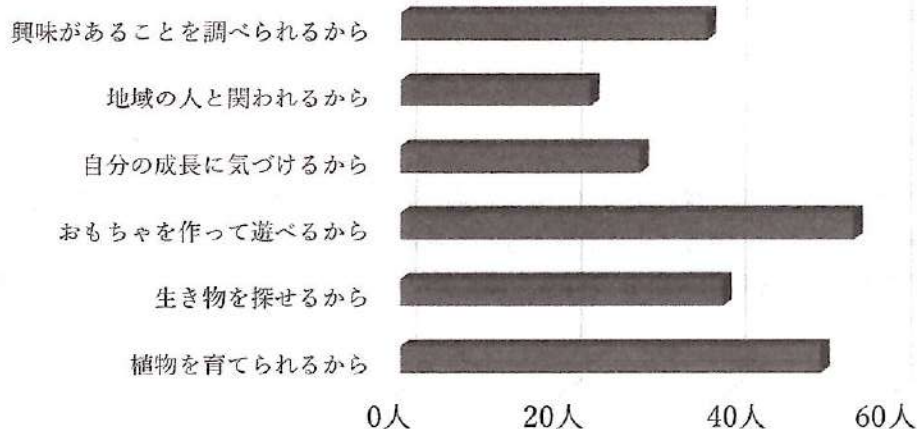
- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。
- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることにより気づくとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとしている。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

本単元では、友だちと一緒に昔遊びの名人を目指して遊びの工夫を凝らしたり、楽しい遊び方を発見したりするなどの活動を広げていく。さらに、昔遊びについて探究していくうちに、地域のお年寄りに教えてもらえばよいということに気づき、一緒に遊ぶことによって、進んで地域のお年寄りに関わったり、お年寄りの優しさや知恵のすばらしさに気付いたり、感謝の気持ちをもたせていきたい。

(2) 児童の実態（令和6年度1学年 99名）



生活科の学習が好きな理由(複数回答可)



実態調査から、本学年の児童は、生活科が「好き」または「どちらかといえば好き」と93%の児童が回答している。好きな理由を選択してもらうと、「地域の人と関われるから」という回答が1番少なかった。

この質問をした時期より前の6月には、生活科の「つうがくろで みつけたよ」の学習において、通学路で登校の見守りをを行っている交通安全推進隊の方々の存在に気づき、インタビューを行っている。その経験から、地域の方々が自分たちのことを守り、支えてくれていることを学んできた。今では、交通安全推進隊の方に自ら挨拶を行う児童も多い。しかしこの結果を見ると、子どもたちにとっては、地域の人との関わりがまだまだ希薄であると感じる。

また子ども達は、既製品や ICT 機器を活用した遊びをすることが多く、遊びの幅は広くはない。昔から伝わる遊びを楽しむ活動を通して、遊びを工夫したり、みんなで遊んだりすることの楽しさを感じさせたい。

(3) 指導観

探究プロセス1では、冬休みに遊んだことをテーマに、子どもの身近な経験から、昔遊びに注目させていく。昔遊びには、どのような種類があるのかを、インターネットや図書室の本、家族や近所の人への聞き込みなど、あらゆる手段を活用して調べ学習をしていきたい。調べた昔遊びを共有し、実際に遊んでみる。その際、教室に遊び道具コーナーを設け、授業内だけでなく、休み時間に自由に遊べるようにして、遊ぶ時間を十分に確保していく。

探究プロセス2では、まず昔遊びをした経験の振り返りをし、楽しかったことだけでなく、難しかった点や、わからなかった点を共有し、「昔遊び名人」になることを目標とするうえで、どのように課題を解決していくべきかを考える。インターネットの動画や、図書室の本では、細かな動きを習得するには理解が難しかったことを振り返り、地域の昔遊びが上手な方に、直接教えていただきたいという願いを持つ。地域の方々を招いての昔遊び会においては、事前に、年上の方への言葉遣いや、礼儀を学んでおき、互いに気持ちよく接することができるように、指導を行う。実際に地域の方と触れ合うことで、お年寄りの優しさや知恵のすばらしさに気付いたり、感謝の気持ちを表したりしていきたい。

探究プロセス3では、外国籍の児童も多いことから、「外国にも、昔から伝わる遊びがあるのかな?」という児童の疑問を調べる探究が始まる。児童の探究は、授業を超えて発展していく。教員は、ファシリテーターとして支えていきたい。

(4) 仮説との関わり

【仮説1】

人とのかかわるまでの過程や、出会いの場を工夫することで、より主体的にかかわる意欲や姿勢が養われるだろう。

○主体的にかかわる意欲や姿勢を養うための手立て

- ・自ら、様々な昔遊びについて調べることで、知識を深めていく。
- ・事前に児童だけで昔遊びを楽しむ時間を十分にとることで、「昔遊び名人」なることを目指して、「できるようになりたい。」「やってみたい。」「コツを知りたい。」といった児童の願いや思いを高めていく。

【仮説2】

探究プロセスの「①思いや願いをもつ」「③感じる・考える」の指導を工夫することで、児童の気づきの質が高まり、思いや願いの醸成・発展につながるだろう。

○児童の気づきの質を高めるための手立て

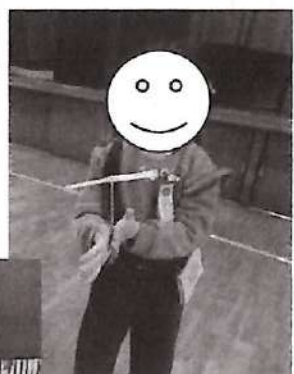
- ・児童の意見を教員が可視化し、共有しやすくする。
- ・昔遊びを上手にするコツを共有できるような声掛けをする。

○思いや願いを醸成・発展させていくための手立て

- ・ワークシートは、「感想」と「次にしてみたいこと」のシンプルな質問のみにし、児童の思いや願いを引き出しやすくする。

探究のスパイラル①

学習 過程	○学習活動 ・児童の思考	指導・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
① 思いや願 いをもつ	○冬休みにした遊びを想起する。 ・バドミントン ・ゲーム ・ドッチボール ・サッカー } ・たこあげ ・こま ・お人形遊び ・けん玉 ↓ ・遊びの中には、昔からある遊びもあるんだね。 ・おじいちゃんおばあちゃんたちもゲームをやっていたんじゃない？ ・え？テレビも無かったの？ ・昔の子どもは退屈だったんじゃないかな。 昔の人たちは、他にどんな遊びをしていたのだろう？ ○調べ方を考える。 ・インターネットで調べよう。 ・おじいちゃん、おばあちゃんに聞いてみよう。 ・近所の人に聞いてみよう。 ・本で調べよう。	・子どもから出てきた意見を、意図的に昔遊びと、そうでないものに分けて板書する。 ・右側に板書したものは、昔から伝わる遊びであることを伝える。 ・昔は、テレビや携帯電話が無い時代もあったことを伝える。 ○昔から伝わる遊びがあることに気づくことができる。(知・技)【発言】	
② 活動や体 験をする	○昔の人たちは、どんな遊びをしていたかを調べる。 ・インターネット ・図書室の本  	・昔遊びについて、おうちの人や近所の人に聞くことを宿題に出す。 ・1つのツールだけでなく、様々な調べ方をするように、声をかける。 ◎自ら、様々な昔遊びについて調べることで、知識を深めていく。 (仮説1)	タブレット 端末 図書室の本 ワークシート

・おうちの人や近所の人に聞く	むかしあそび ちょうさ  テレビやスマホがなかった じいちゃん、おばあちゃん、子どもをどう遊ばせましたか？ おうちの人に聞いて ちょうさしよう！ <table border="1"> <tr><td>こま</td><td>あやとり</td></tr> <tr><td>たこあし</td><td>かんけり</td></tr> <tr><td>よてだま</td><td>たけくら</td></tr> <tr><td>おしり</td><td>かるた</td></tr> <tr><td>めんこ</td><td>おりがみ</td></tr> <tr><td>けんたま</td><td>しょうぎ</td></tr> <tr><td>たけとんぼ</td><td>なわとび</td></tr> <tr><td>かみきりせん</td><td>はねつき</td></tr> </table>	こま	あやとり	たこあし	かんけり	よてだま	たけくら	おしり	かるた	めんこ	おりがみ	けんたま	しょうぎ	たけとんぼ	なわとび	かみきりせん	はねつき	○進んで昔遊びについて調べ、まとめている。 (思・判・表)【ワークシート・観察】	
こま	あやとり																		
たこあし	かんけり																		
よてだま	たけくら																		
おしり	かるた																		
めんこ	おりがみ																		
けんたま	しょうぎ																		
たけとんぼ	なわとび																		
かみきりせん	はねつき																		
③ 感じる・考える	○調べたことを共有する。 ・昔からの遊びがたくさんあるね。 ・やったことがある遊びもある。 ・こまを保育園でやったよ。 ・これは、どうやって遊ぶんだろう？ ・昔遊びをやってみたい。	・子どもたちから出た意見を板書し、可視化することで、共有しやすくする。 ○昔遊びに興味を持ち、進んで自分の意見を皆に伝えている。 (主学態)【発言】:																	
④ 行為する・表現する	○いろいろな昔遊びで実際に遊んでみる。   	・遊び道具は休み時間に自由に遊べるように教室に遊び道具コーナーを設ける。 ◎事前に児童だけで昔遊びを楽しむ時間を十分にとることで、「昔遊び名人」なることを目指して、「できるようになりたい。」「やってみたい。」「コツを知りたい。」といった児童の願いや思いを高めていく。 (仮説1) ○昔から伝わる遊びの面白さや、みんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。 (知・技)【観察】	図書室の本 タブレット端末																

探究のスパイラル②

学習 過程	○学習活動 ・児童の思考	指導・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
① 思いや願いをもつ	○昔遊びをしたことを振り返る。 ・竹とんぼが楽しかった。 ・あやとりが楽しかった。 ・かるたが楽しかった。 ・けん玉が楽しかった。 ・こまに紐を巻くのが楽しかった。 ・あやとりが楽しかった。 ・本や動画でやり方を見ても、いまいちわからなかった。 おかしあそび☆ふりかえり ★☆☆ なごきまな、おかしあそびを、たいけんして、どうでしたか？ かんそうを、ひきかえよう。 あやとりができてうれしかった。 けん玉ができてたのしかった。 こまのまきかたがわからなかった。 ↓ なごきまな、どうしようか考えてみたいですか？ あやとりのちがうやりかたが知りたい。 またちがうあそびがしたい。 おかしあそび☆ふりかえり ★☆☆ なごきまな、おかしあそびを、たいけんして、どうでしたか？ かんそうを、ひきかえよう。 けん玉でちゃんとむずがしづしづ。 こまがひもてまくのずとずしづ。 ↓ なごきまな、どうしようか考えてみたいですか？ おじいさんおばあさんに教えてみたい。 またちがうあそびがしたい。 ちがうあそびをしりたい。 ○今後、したいことを考える。 ・もっと違う遊びがしてみたい。 ・もう1回チャレンジしてみたい。 ・あやとりの違う技が知りたい。 ・こまの紐の巻き方が知りたい。 ・おてだま3つでできるようになりたい。 ・おじいさん、おばあさんにやり方を教えてもらいたい。	・ワークシートを用意することで、全員が振り返りをして、個々に次への願いや思いをもつことができるようにする。 ◎児童の意見を教員が可視化し、共有しやすくする。 (仮説2) ○昔遊びをした体験を振り返り、ワークシートにまとめることができる。 (思・判・表)【ワークシート】 おかしあそび☆ふりかえり ★☆☆ なごきまな、おかしあそびを、たいけんして、どうでしたか？ かんそうを、ひきかえよう。 けん玉でちゃんとむずがしづしづ。 こまがひもてまくのずとずしづ。 ↓ なごきまな、どうしようか考えてみたいですか？ おじいさんおばあさんに教えてみたい。 またちがうあそびがしたい。 ちがうあそびをしりたい。 ・インターネットの動画や、本では、あまり遊び方がわからなかったことを想起させる。 ◎ワークシートは、「感想」と「次にしてみたいこと」のシンプルな質問のみにし、児童の思いや願いを引き出しやすくする。 (仮説2)	ワークシート
昔遊びが上手な地域の人に教わって、昔遊び名人になろう！			

② 活動や体験をする

○地域の方々から昔遊びを教わりながら、一緒に遊ぶ。



はごいたは、こう
やって持つんだよ。
上手だね。

こまの紐は、こうや
って巻くんだよ。
ゆっくりでいいよ。



あやとりは、紐を
ここの指に入れ
てごらん。

- ・「お手玉」「コマ」「おはじき」「はごいた」「あやとり」「けん玉」「だるまおとし」「めんこ」を用意しておく。
- ・事前に、地域の方への言葉遣いを児童と考え、指導しておく。
- ・教わるときに、「お願いします。」「ありがとうございました。」と挨拶をするように指導しておく。

◎昔遊びを上手にできるコツを共有できるような声掛けをする。(仮説2)

○昔遊びについて、コツを比べたり、試したりしながら遊びを楽しんでいる。
(思・判・表)

○地域の人に親しみをもち、進んでかわっている。(主学態)【観察】

③ 感じる・考える	○地域の方々と昔遊びをしたことを振り返る。 ・コツをつかむことができた。 ・もっと上手になりたいくなった。 ・こまを褒めてくれてうれしかった。 ・こまの糸の結び方がよくわかった。 ・地域の方々が優しくかった。 ・地域の方々が上手でびっくりした。 ・あやとりが上手になってうれしかった。 ・たのしかった。 ○今後、どのようなことをしたいか考える。 ・地域の方々に、恩返しをしたい。 ・お礼の気持ちを伝えたい。→お手紙 ・教わったコツを友達に教えたい。 ・もっと上手になって、友達に見せたい。 ・他の国にも昔からある遊びってあるのかな？ ちいさなこまを おかしあそび ☆☆☆ こまの糸の結び方を よくわかった。 ↓ 地域の方々に お礼の手紙を書いた。 ちいさなこまを おかしあそび ☆☆☆ こまの糸の結び方を よくわかった。 ↓ 地域の方々に お礼の手紙を書いた。	・ワークシートを用意することで、全員が振り返りをして、個々に次への願いや思いをもつことができるようにする。 ○友達や校区の方と一緒に遊ぶことを通して、昔遊びの楽しさ、面白さや地域の人の優しさに気付いている。 (知・技)【ワークシート】	ワークシート
④ 行為する・表現する	○地域の方々に、感謝のお手紙を書く。 ・教えてくださったおかげで、こまの紐が上手に巻けるようになりました。ありがとうございました。 ・褒めてもらえて、うれしかったです。 ・けん玉のいろいろな技を見て、びっくりしました。 ・また、学校に来て、一緒に遊びましょう。 ちいさなこまを おかしあそび ☆☆☆ こまの糸の結び方を よくわかった。 ↓ 地域の方々に お礼の手紙を書いた。 ちいさなこまを おかしあそび ☆☆☆ こまの糸の結び方を よくわかった。 ↓ 地域の方々に お礼の手紙を書いた。	○地域の人に感謝の気持ちを表している。 (思・判・表)【お手紙】	便覧 ちいさなこまを おかしあそび ☆☆☆ こまの糸の結び方を よくわかった。 ↓ 地域の方々に お礼の手紙を書いた。

探究のスパイラル③

学習 過程	○学習活動 ・児童の思考	指導 ・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
① 思いや願いをもつ	○外国の昔遊びに興味を持つ。 ・Yさんの国では、どんな遊びがあるんだろう？ ・じゃんけんは、どの国も共通じゃない？ ・日本とは全く違うものがあるんじゃない？	○海外の昔遊びについて、興味を持つことができる。(思・判・表)【発言】	
	海外の昔遊びはどのようなものがあるのだろうか？		
② 活動や体験をする	○海外の昔遊びについて調べる。 ・おうちの人に聞いてみよう。 ・ALTの先生に聞いてみよう。 ・インターネットで調べてみよう。	○進んで海外の昔遊びについて調べようとしている。(主学態)【観察】	

授業を終えても、
児童の探究は続い
ていく。

授業実践例 ②（令和6年度 第1学年）

1 単元名 もうすぐ2年生

2 単元の目標

入学してからの1年間を振り返ったり、年長児と関わりを深めたりする活動を通して、1年前の自分と今の自分を比べたり、支えてくれた人々のことを思い起こしたりして、自分自身の成長や役割が増えたことに気付くとともに、支えてくれた人への感謝の気持ちと、進級への期待感や意欲をもって生活しようとすることができるようになる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容を受けて設定したものである。

- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。
- (9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

来年度入学してくる園児に、喜んでもらいたいという思いをもち、園児にも分かるように工夫して学校生活のことを教えたり、一緒にミニ授業を楽しむことができるようにしたりすることをねらいとしている。従って園児に、小学校の生活を分かりやすく伝えるにはどうしたらよいか、また、小学校に入学するのが楽しみになるようにするには、自分たちはどうすれば良いのかと考えさせていく。そして、学校生活について伝える準備をしたり、ミニ授業の内容を考えたりする活動を通して、自分や友だちのよさを出し合い行動していく力を育てたい。

(2) 児童の実態（令和6年度1学年 99名）

本学年の児童は、これまでに近接する八街第一幼稚園の園児と複数回、交流を行っている。10月には幼稚園児を招き、運動会の表現運動を披露した。また、11月にはどんぐりや松ぼっくりなどの木の実や落ち葉を使っておもちゃを作り、幼稚園児を招いて「あきまつり」を開催している。これらの経験から、年下の園児と交流する楽しさを実感していると考えられる。

またそれらの交流をする際に、小学校の担当教員が幼稚園の担当教員と連絡を密にして、お互いの情報を共有しながら計画を行ってきた。

(3) 指導観

探究プロセスIでは、入学時の写真を見ながら、当時、楽しい気持ちとともに不安な気持ちもあったことを想起し、入学前の園児にしてあげたいこと主体的に考えられるようにする。

(4) 仮説との関わり

【仮説1】

人とかかわるまでの過程や、出会いの場を工夫することで、より主体的にかかわる意欲や姿勢が養われるだろう。

○主体的にかかわる意欲や姿勢を養うための手立て

- ・入学時の写真を見ながら、その時の自分の気持ちを想起することで、入学前の園児にしてあげたいこと主体的に考えられるようにする。
- ・学校案内やミニ授業など会の運営は、できる限り子どもたちの手に委ねて、教師はサポーター役に徹する。

【仮説2】

探究プロセスの「①思いや願いをもつ」「③感じる・考える」の指導を工夫することで、児童の気づきの質が高まり、思いや願いの醸成・発展につながるだろう。

○児童の気づきの質を高めるための手立て

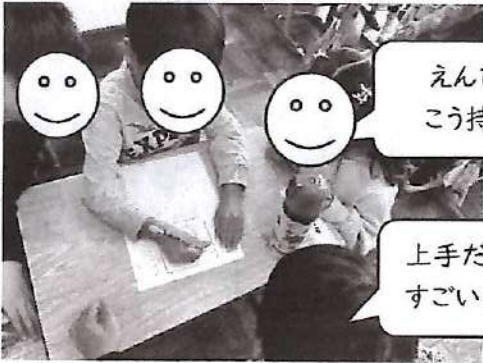
- ・入学体験の練習の時に、他のクラスの児童と交互に園児役になって練習することで、園児に対する接し方を客観的に考えられるようにする。

○思いや願いを醸成・発展させていくための手立て

- ・ワークシートは、「感想」と「次してみたいこと」のシンプルな質問のみにし、児童の思いや願いを引き出しやすくする。

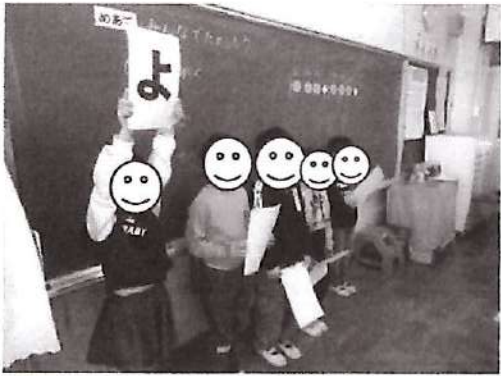
探究のスパイラル①

学習過程	○学習活動 ・児童の思考	指導・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
① 思いや願いをもつ	○自分の入学時を想起する。 ・給食が楽しみだった。 ・勉強が楽しみだった。 ・みんなで遊ぶのが楽しみだった。 ・友達ができるか不安だった。 ・幼稚園を卒園するのがいやだった。 ○園児にしてあげたいことを考える。 ・学校を案内したい。 ・勉強を教えたい。 ・一緒に遊びたい。 ・優しく接したい。 ・折り紙のメダルをあげたい。 かいにくほいくえん ☆小がっこうたいけん かいにくほいくえん 小がっこう 入校前は、どんな 気持ちだったかな？ おもいでしてあげよう！ べんぎょうがたのしみだった 小学校でもともとたづね れるかな。 ↓ かいにくほいくえんの子に どんなことを してあげたいかな？ ふあを なくしてあげた の 手づくりメダルをプ レゼントしたい。  かいにくほいくえん ☆小がっこうたいけん かいにくほいくえん 小がっこう 入校前は、どんな 気持ちだったかな？ おもいでしてあげよう！ ともだちがたのしみだった ことがあった。 ↓ かいにくほいくえんの子に どんなことを してあげたいかな？ ともだちになつてあげたいや くしてあげたい。  ○自分たちの1年前と同じ状況の園児に小学校について伝えたいという意欲を持つ。 (思・判・表)【ワークシート】 小学校への不安を無くしてあげよう。	◎入学時の写真を見ながら、その時の自分の気持ちを想起することで、入学前の園児にしてあげたいこと主体的に考えられるようにする。 ・楽しい気持ちだけでなく、不安な気持ちもあったことを取り上げる。 ・保育所時代に小学校と交流したことのある子に、その時にしてもらったことやその時の気持ちなどを話させることで、「わたしたちも学校に招待しよう」という気持ちをもてるようにする。	入学時の写真 ワークシート

② 活動や体験をする ③ 感じる・考える	○かいたく保育園小学校体験の準備をする。 ・グループを分けて、事前に園児の名前を覚えておこう。 ・ひらがなクイズを出そう。 ・数字あてクイズを出そう。 ・ランドセルを背負わせてあげよう。 ・おみやげに、メダルを準備しよう。 ・喜んでくれるといいな。 ・低い机といすに座らせてあげよう。 	○園児を温かく迎えようと、内容を考えて、プレゼントを用意したりしている。(主学態)【観察】 ・保育園の担当教員と連絡を密にして、お互いの情報を共有しながら計画を立てる。 ・担当園児の名前をグループごとに決め、覚えさせておく。
④ 行為する・表現する	○かいたく保育園・小学校体験をひらく  えんぴつはこう持つよ。 上手だね! すごい!  じゃんけんで負けたら後ろに付いてね。	○友だちや園児を思いやりながら一緒に過ごすことにより、適切な接し方や関わって活動することの楽しさに気づいている。(知・技)【観察】

探究のスパイラル②

学習過程	○学習活動 ・児童の思考	指導・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
① 思いや願いをもつ	○かいたく保育園小学校体験の振り返りをする。 ・不安を無くせたと思うな。 ・園児が満足そうではかった。 ・でも、保育園生は緊張して笑顔じゃなかったよ。 ・自分も緊張しちゃったな。 ○第一幼稚園小学校体験でしたいことを考える ・今度は、自分たちで学校を案内したい。 ・もっと勉強を教えてあげたい。 ・教科書を見せてあげたい。 ・音読をしてあげたい。 ・自分たちが先生役になって教えたい。 ・優しくして、不安を無くしてあげたい。 ・緊張をほぐしてあげたい。	◎ワークシートは、「感想」と「次にしてみたいこと」のシンプルな質問のみにし、児童の思いや願いを引き出しやすくする。 ○振り返り、自分なりの感想をもち、積極的に発言しようとしている。 (主学態)【観察】	ワークシート
自分たちが先生役となって小学校のことをたくさん教え、 園児を笑顔にしたい！			

② 活動や体験をする ③ 感じる・考える	○ハ街第一幼稚園小学校体験の準備をする。 ・自分たちが先生役になって、楽しくミニ授業をしよう。 ・園児が正解したら、みんなで拍手して盛り上げてあげよう。 ・他のクラスの子に園児役になってもらって、練習してみよう。 	◎入学体験の練習の時に、他のクラスの児童と交互に園児役になって練習することで、園児に対する接し方を客観的に考えられるようにする。 ・ミニ授業を見せ合う場では、お互いのがんばっているところなどを認め合えるように援助する。 ○友達と協力して取り組むことができる。 (主学態)【観察】
④ 行為する・表現する	○ハ街第一幼稚園・小学校体験をひらく ◆はじめの会を体育館で開く。 ◆校内を班ごとに案内する。 ◆教室にもどって、 ・号令 ・座り方 ・話の聞き方 ◆ランドセルを背負わせてあげる。 ◆音楽・リズム遊び「ぶんぶんぶん」 ・うた「きらきらぼし」 ◆国語・音読「けむりのきしゃ」 ・平仮名クイズ ◆算数・数字クイズ ・手たたき数当て色塗り ◆メダルのプレゼント 	◎学校案内やミニ授業など会の運営は、できる限り子どもたちの手に委ねて、教師はサポーター役に徹する。 ○楽しい会になるように、自分の役割を一生懸命に果たしながら、関わり合おうとしている。 (主学態)【観察】

	 ランドセルには教科書を入れるよ。  上手に書けているね。すごいよ！	・春になったら、一緒に小学校で生活することへの期待をもたせる。	
--	--	--	--

探究のスパイラル③

学習過程	○学習活動 ・児童の思考	指導・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
① 思いや願いをもつ	○<u>八街第一幼稚園・小学校体験の振り返りをする。</u> ・園児の表情をみてあげられた。 ・笑顔がだんだん出てきて不安を無くせた。 ・前より楽しくできた。 ・学校探検を頑張った。 ・自分たちの先生役を頑張った。 ・自分も楽しかった。 ○<u>今後したいことを考える。</u> ・園児が入学してきたら、楽しいことをしてあげたい。 ・一緒にドッジボールをしたい。 ・今度は、自分たちが幼稚園に行って一緒に遊びたい。	○自分の頑張りや、成長に気づいている。 (知・技)【発表】	ワークシート

園児ともっと仲良く遊びたい。

授業を終えても、
児童の探究は続いていく。

授業実践例 ③（令和6年度 第1学年）

1 単元名 じぶんでできるよ

2 単元の目標

家庭生活は、家族の仕事や温かさによって支えられていることに気付き、家族の一員として自分のできることを考え、進んで自分の役割を果たすとともに、規則正しい生活を送ることができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容を受けて設定したものである。

(2) 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。

児童が自分の生活や家族について調べたり話を聞いたり、家の仕事を手伝ったりすることを通して、家庭の温かさを実感するとともに、家族の一員として自分ができようことを考え、よりよい生活をしようとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態（令和6年度1学年 99名）

本学年の子どもたちは、入学してから学習活動や学校生活において、たくさんの人と関わり合いながら過ごしてきた。その中で、自分たちの学校生活が、たくさんの人に支えられていることに気付いている。また、学校生活にも慣れ、授業や係活動等、自ら進んで活動に取り組むなど、自分でできることも増えてきている。そこで本単元では、家庭生活に焦点をあて、普段当たり前のように接している家族を改めて見つめ直すことを通して、家族の大切さや一人一人のよさに気付いたり、よりよい生活をしようとする意欲を高めたりしていきたい。

(3) 指導観

探究プロセス1では、はじめに算数科「なんじなんぷん」の学習に関連して、時刻を意識しながら自分の1日を振り返る。それからおうちの人の1日を調べる活動をすることで、自分と、おうちの人の1日を比較し、より違いに気づきやすくする。また、自分の1日を振り返る際に、友だちの生活を知ることによって意外な違いや共通点を見出すと考えられる。「あれ、そんなに早く寝るの?」「朝ごはんのあと、歯を磨かないの?」など、不思議に思うことも多いはずである。それが自分の生活を改善する材料となり、規則正しく健康に気を付けて生活する意欲を高めたい。

探究プロセス2では、自分のために毎日、働いてくれているおうちの人を「笑顔にする」ことを目標に、自分のできることを各家庭で活動してくる。それぞれが家庭で活動したことを報告したり発見したことを交流し合ったりすることで新たな気づきがあり、それが次の活動（探究プロセス3）へとつながるようになると考えられる。単元を通して、意見交流を活発にしてお互いが刺激し合えるような話し合い活動を行っていきなさいと思う。

子どもたちの家庭にはあらかじめ学習のねらいを伝え、一緒に過ごす時間を作っていただくと同時に子どもたちにたくさん声をかけていただくことをお願いする。一緒にいることが当たり前であったおうちの人について徐々に目が向き、自分の生活におうちの人が多く関わっていることを感じていくようにする。そして、一緒にすることが嬉しい、楽しいといった思いを語ることで、もっと家の人と一緒にしたいという思いを膨らませたいと思う。その中で、「ありがとう。」「助かったよ。」などの声をもらえた子どもたちは、自分が役

に立てたことや喜んでもらえたことを嬉しく思うだろう。その思いを次の活動意欲にして、自分からおうちの人と協力していく家庭生活を経験できるようにしていきたい。

(4) 仮説との関わり

【仮説1】

人とかかわるまでの過程や、出会いの場を工夫することで、より主体的にかかわる意欲や姿勢が養われるだろう。

○主体的にかかわる意欲や姿勢を養うための手立て

- ・はじめに自分の1日を振り返ることで、おうちの人との1日と比較し、おうちの人にしてもらっていることに気づけるようにする。
- ・タブレットを家へ持ち帰り、おうちの人のために働く姿を撮影してくることで、自分の頑張りを皆と共有したり、自分で振り返りやすくしたりする。

【仮説2】

探究プロセスの「①思いや願いをもつ」「③感じる・考える」の指導を工夫することで、児童の気づきの質が高まり、思いや願いの醸成・発展につながるだろう。

○児童の気づきの質を高めるための手立て

- ・おうちの人との1日を調べる際、家事に焦点をあてられるように、選択式のワークシートにする。
- ・一人一人の気づきを交流する場を繰り返し設定することで、自分の思いや気づきを自覚するとともに、友だちの思いや気づきを共有し、新たなめあてをもち取り組むことで、気づきの質を高めていく。

○思いや願いを醸成・発展させていくための手立て

- ・振り返りの際のワークシートは、「感想」と「次にしてみたいこと」のシンプルな質問のみにし、児童の思いや願いを引き出しやすくする。

- 24 -

② 活動や体験をする

○おうちの人の1日を調べる。

◎おうちの人の1日を調べる際、家事に焦点をあてられるように、選択式のワークシートにする。

(仮説2)

○家庭生活を支えるための家族の仕事調べている。

(主学態)【ワークシート】

ワークシート

おうちの人の1日をしらべよう

(お母さん)にきいて、○をつけよう。

①おきてから、ひるまでしていること

() おきる () みる	() せんたく ばす
() おむし	() せんたく たたむ
() おまごはんのようい	() しごとのじかんび
() おむしあらい	() 子どものじかんび
() おまごはんをみる	() おべんどうをつくる
() 子どもの学校へおく	() おまごはんをみる
() そのほか	() そうじ

かものごみをだす
はみがきのしあげ
ふろのそで

②ゆうがたから、わるまでしていること

() 子どものしごきを見る	() おらるに入る
() おまごはんのじかんび	() 学校におむし
() おまごはんをみる	() 下の子のむし
() そうじ	() だいき
() せんたく たたむ	() おまごはんをみる
() せんたく ばす	() おまごはんのじかんび
() ねる () みる	() テレビを見る
() そのほか	

よくをみたすけ

おうちの人の1日をしらべよう

(お父さん)にきいて、○をつけよう。

①おきてから、ひるまでしていること

() おきる () みる	() せんたく ばす
() おむし	() せんたく たたむ
() おまごはんのようい	() しごとのじかんび
() おまごはんをみる	() 子どものじかんび
() おまごはんをみる	() おべんどうをつくる
() 子どもの学校へおく	() おまごはんをみる
() そのほか	() そうじ

かものごみをだす
はみがきのしあげ
ふろのそで

②ゆうがたから、わるまでしていること

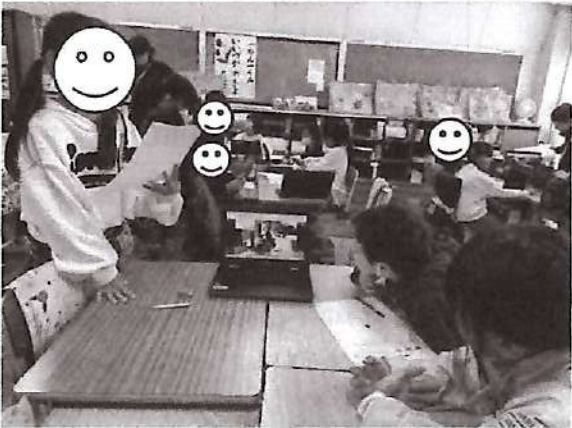
() 子どものしごきを見る	() おらるに入る
() おまごはんのじかんび	() 学校におむし
() おまごはんをみる	() 下の子のむし
() そうじ	() だいき
() せんたく たたむ	() おまごはんをみる
() せんたく ばす	() おまごはんのじかんび
() ねる () みる	() テレビを見る
() そのほか	

かものごみをだす
はみがきのしあげ
ふろのそで

③ 感じる・考える	○おうちの人の1日を調べてわかったことを振り返る ・自分がしていないことを、お母さんが一生懸命に頑張っていた。 ・お母さんが、早く起きていてびっくりした。 ・おうちの人って、こんなにいっぱい仕事を頑張っ てやっているのだなと思った。 ・自分の生活よりも、お母さんの方が大変なのが わかった。 おうちの人の1日しらべ☆ふりかえり ★☆☆ ☆わかったこと じぶんがしてないことに お母さんが一生懸命に 頑張っていることに びっくりした。 ↓ ☆これからしたいこと じぶんもおかあさんの ために、はやくおこ つたほうがいい。	・おうちの人にしてもらっていること や、助けられ、支えられて生活がで きていることに気付かせる。 ・ 家族構成や家庭生活の様子に配 慮する。 ○家族にしてもらっていることが多い ことに気が付いている。 (知・技)【ワークシート・発言】 おうちの人の1日しらべ☆ふりかえり ★☆☆ ☆わかったこと ママが、早くおきかたが ママが早くおきかたが ママが早くおきかたが ママが早くおきかたが ↓ ☆これからしたいこと おきかたが早くおきかたが おきかたが早くおきかたが	ワークシート
------------------	--	--	---------------

探究のスパイラル②

学習 過程	○学習活動 ・児童の思考	指導・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
① 思いや願いをもつ	○これからしたいことを考える。 ・お手伝いをして、おうちの人を喜ばせたい。 ・毎日、自分のことは、自分でやっていきたい。 ・おうちの人に優しくしてあげたい。 ・お皿洗いを手伝ってあげたい。 ・洗車をしてあげたい。	◎振り返りの際のワークシートは、 「感想」と「次にしてみたいこと」 のシンプルな質問のみにし、児童 の思いや願いを引き出しやすくす る。 (仮説2) ○家庭の中で自分のできることにつ いて考えている。 (思・判・表)【ワークシート・発言】 おうちの人を笑顔にしよう。	ワークシート

② 活動や体験をする	○<u>おうちの人が笑顔になるような活動をする。</u> ・私はお皿洗いをしよう。 ・自分の上履きは自分で洗おう。 ・玄関の靴を揃えよう。  	・家庭との連携を図るため、保護者へ事前に活動のねらいや内容を説明し、理解と協力を得ておく。 ◎タブレットを家へ持ち帰り、おうちの人のために働く姿を撮影することで、自分の頑張りを皆と共有したり、自分で振り返りやすくしたりする。 (仮説1)	タブレット
③ 感じる・考える ④ 表現する・行為する	○<u>活動の報告会をして、振り返りをする。</u> ・私は、洗濯物をしました。干すのが難しかったです。 ・僕は、料理をしました。お母さんに上手と言われて嬉しかったです。 ・僕はお風呂掃除をしました。ちょっときつい姿勢でした。 	◎一人一人の気付きを交流する場を繰り返し設定することで、自分の思いや気付きを自覚するとともに、友だちの思いや気付きを共有し、新たなめあてをもち取り組むことで、気付きの質を高めていく。 (仮説2) ○自分の活動で気づいたことを発表したり、友達の気付きを聞いたりすることができる。 (知・技)【発表】 	ワークシート

探究のスパイラル③

思いや願いをもつ	<u>○これからしたいことを考える。</u> ・おうちの人に感謝したい。 ・毎日、お手伝いしていきたい。 ・お母さんがいつも大変だと思ったから、もっと自分がやっていないことを毎日頑張りたい。 ・家族を大事にしたい。	○家族のために自分でできることを考え、継続して実践しようとしている。 (主学態)【観察・ワークシート】	ワークシート
-----------------	---	---	---------------



6 成果と課題

人とのかかわるまでの過程や、出会いの場を工夫することで、より主体的にかかわる意欲や姿勢が養われるだろう。

- かかわる前に自分たちだけで経験することで、目的意識をもって人とのかかわることができた。
- 地域の方とかかわる時間と実際にやってみる時間を多く確保したことで、多くの疑問が生まれ、積極的にかかわることができた。
- ▲地域人材の確保に時間がかかった。その年度で協力していただいた方のリストを残して、次の年度に引き継いでいくことが必要である。

探究プロセスの「①思いや願いをもつ」「③感じる・考える」の指導を工夫することで、児童の気づきの質が高まり、思いや願いの醸成・発展につながるだろう。

- 活動のたびにワークシートを使って振り返ることで、次の課題に意識を向けることができた。
- 同じ形式でシンプルな作りのワークシートを使い続けることで、子どもたちが活動を振り返りやすくし、ほとんどの子どもが次の課題や願いをもつことができた。
- 「海外の昔遊びはどういうものだろう」「保育園の子は小さいから、小さい椅子を探そう」など、指導者の予想を超える発言が多数確認でき、気づきの質が高まったことがうかがえた。
- ▲一斉授業の中で子どもの意見を教員が集約して板書したため、どうしても取りこぼしてしまう意見があった。学年内でやり切れないものに関しては、次学年の学習に生かしていくことも一つの手段であると考える。